

アイヌタイムズ 第28号 日本語版

★ Mac OS X 10.3 (通称：パンサー)

アイヌタイムズ第14号(2000年9月)で、私は新しいカタカナ文字コードがJISの規格に入ったということを書きました。この規

格の中には、アイヌ語を書くときに使われる「ラ」「ム」のような小さなカタカナ文字や、「ト°」のような半濁点文字など、20

のカタカナ文字コードがありました。

第17号(2001年6月)では、この新しい文字コードを含むフォントが、パソコンでどのように使われるかということを書きました。しかし、この時は、新しい文字を一つずつ文字パレットから選んだり、特別なソフトを使わないといけなかったのが、まだまだ不便でした。

その後、第20号(2002年3月)で、このカタカナ文字が新たにユニコード3.3と言われる国際規格の中に入ったと書きました。アップル社が作ったMac OS X 10.1(パソコン基本ソフト)は、このユニコードを使うことができました。しかしこのソフトも、一つずつ新しい文字を選んで入力するので不便でした。

さらによいソフトができて、アイヌ語を書きやすくなればよいと思っていると、2003年10月25日にアップル社がMac OS X 10.3を作りました。

このOSで、私たちはもっとアイヌ語を書きやすくすることができるようになったのです。

まず、ヒラギノProフォントという書体を指定して、「ことえり4」という文字入力プロセッサを使います。そして、「TextEdit」というワープロソフトを使って、アイヌ語ローマ字を入力すると、そのままアイヌ語カタカ

ナが出力されます。アイヌ語の小さなカタカナ文字も、半濁音文字も簡単に出てきます。

しかも、この新しい文字は、文字コードが普通のカナ文字と違うので、どのソフトを使っても文字化けせずにそのまま表示されます。

ただ、このソフトでは、ローマ字の文を一度にカタカナの文に変換することはできません。そのため、私は一つのプログラムを人からいただいて、別のプログラムを作りました。それで簡単に変換できます。

さらに「TextEdit」は、「Shift-JIS X0213フォントファイル」から「ユニコード・ファイル」を作ったり、逆に「ユニコード・ファイル」から「Shift-JIS X0213フォントファイル」を作ることもできるので、今までのファイルを無駄にしないで生かすことができます。

Macというパソコンをお使いの方をご存知でしたら、この話を是非お伝えください。

なお、私は最近、Windowsの「秀丸エディタ」の中で「普通のフォント」だけでアイヌ語を書けるプログラムを作りました。

今までの話と共に、詳細をご希望でしたら、リンクページをご覧下されれば幸いです。

<http://aynuitak.at-ninja.jp/>

[横山 裕之] 沙流・千歳